

第3回大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議の概要

平成16年7月3日(土)13時30分～15時30分

事務局があらかじめ示した論点について、委員の意見を求めました。

■平成17年度以降の大四日市まつりについて

■参加者について

- 中高生の参加をもっと増やせば、今後のまつり発展につながる。

■おどりと他の企画との連携

- おどりフェスタを、山車と太鼓とおどりが参加できるものにしたい。
- 山車をイベントに加えると、歴史性が前面に出すぎておどり等がやりにくい。山車は出ないほうが良い。
- まつりの原点は、諏訪神社へ奉納行事。これとは別に、市民が参加したり見たりして楽しむ夏まつりもあっていい。楽しむまつりに必ずしも山車が必要ではなく、新しいまつりを作ればよい。
- 「Kai-kou～めぐりあい～」で伝統行事とおどりが融合しているが、観客の対象が異なり、今後も続けるには無理がある。夏はフェスティバルとして暑さを吹き飛ばすようなものがない。山車は原点に帰って伝統を守るべき。

■企画関連

- おどりフェスタが、練習不要で簡単な衣装で参加できれば、もっと参加者が増える。
- YOSAKOI ソーランやど真ん中まつりのようなものを本気で発信するなら、相当覚悟がいる。気軽に参加するという面で逆行することも考慮すべき。
- 40万人の観客のうち、参加者は1000人程度。まつりには、参加する要素と見てもらう要素が必要。
- 大四日市まつりを収束させ、地域のまつりは氏子を中心にしたまつりとする。
- 大四日市まつりに代わる21世紀のまつりを市民参加で創作すべき。その過程で、地域の結束や元気、新しい街づくりにつなげたい。
- 内容は、パレードや踊りなど。各地域・各世代・組織団体などがパフォーマンスを行う。
- 太鼓、鉦、笛、鈴などによる共通の音曲を用いて、お囃子、掛け声、手拍子など出演者も観衆も一体となれるようなものに。CDを製作し、全戸に配布する。
- 各企画でコンテストを実施。
- 地域のまつりは地域に任せ、大四日市まつりには地域のまつりの参加を広く呼びかけるとか数年に1回は鯨船が集結する場面があっても良い。
- 秋まつりは独自で開催。夏は、数年に1回地域のまつりを集結させ大きなまつりにする。

■場所

- 伝統行事とフェスティバルを同時に行うなら、場所を変えたほうが良い。

■ 山車の大四日市まつり出演について

- 夏まつりに山車が出る・出ない、の議論がまとまらないのは、伝統行事と市民参加行事を分離して考えるから。夏に出たい山車は出てもらい、改善すればよい。
- 山車は、秋だけ出演することが望ましいが、夏に参加しないと山車の担い手の問題がある。夏は、夏休みや夏季休暇を利用して参加できるが、秋だけになれば、出演者が減る。夏・秋どちらの時期も、出られる山車が出ることにしたい。協議の結果に従う。
- 山車の都合ではなくまつりを見る市民の立場から見た観点から考えたい重要。
- 総花的との批判もあり、郷土文化財行列は大四日市まつりにないほうが良い。
- 観客がいないとやり甲斐に欠けるが、氏神への奉納は氏子の意地。客寄せではない。
- 山車が夏と秋両方に出る現状を続けると、夏のメインが何かははっきりしないまま。山車が秋に移っても、夏に人々を期待させる企画を行っていくというよう整理したい。
- 夏は神事ではなく、山車が出ているだけ。ただ、来場者の目的は圧倒的に山車なので、山車を大四日市まつりから切り離すことは容易ではない。
- フェスティバルが中心のまつりとし、そこに山車が参加する形式が望ましい。
- 地域文化財保存の観点から市の援助は必要だが、氏神への奉納神事に対して行政から支援はいらない。

■ 時期は「 8 月第 1 日曜日を含む土日曜日 」のままでよい

■ 時期

- 秋まつりはそのまま残して伝統行事は 5 月頃に行い、フェスティバルは夏に行う。
- 8 月第 1 土日に出勤の企業・お盆の帰省者のこと考えると、開催日は盆休みが良い。
- 夏まつりが 8 月・秋まつりが 10 月だと、秋まつり以降次のまつりまでの間隔が長い。5 月頃に大四日市まつりを行わせたい。
- 5 月開催だと、入園したての年少児は幼すぎておどりを教えられない。
- 今の子どもたちは町内で集まったりする機会が少ないなか、夏休みに誰でも楽しめるまつりがなくなるのは寂しい。
- 夏休みでないと子供が練習に参加できない。お盆に帰省で戻る人もあれば、逆に地元に戻る人もいますので、盆休みにこだわる必要はない。子供のまつり離れを防ぐためにも、まつりは夏休みに行うべきと考える。
- 盆休みは盆踊り等が各地域に根付いており、時期が重なる。元気ある高校生を大四日市まつりに引き込みたい。わざわざ競合する祭りが多い盆休みに開催しなくてもよい。
- 8 月 1 日が市制記念日、8 月 4 日が開港記念日であり、現在 8 月上旬に開催している。
- 今や、開催時期と市制記念日や開港記念日の関連を知る人も少ない。フェスティバルに参加しやすい時期に開催すればよい。
- 現在の開催日程は、桑名と鈴鹿のまつりと重複している。
- 幼稚園児は、プールの準備体操代わりにおどりを練習する。開催日がお盆以降になると、夏休み以降の期間が長くなり、おどりを忘れてしまう。
- 盆休みは地元の企業が参加できない。8 月第 2 土日が良い

■ まとめ

大四日市まつりの基本はフェスティバル形式とし、メインイベントは次回も継続協議。
開催時期は、夏の前半の時期を基本に、近隣の大きなまつりや地域のまつりと重複しない時期に行う という方向で、次回も継続協議。